

IT Automation エクスポート/インポート 【実習編】

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

Exastro ■

目次

- 1. はじめに
 - 1. 本書について
 - 2. 作業環境
- 2. 実習 メニューエクスポート
 - 1. 作業手順
 - 2. データ登録
 - 3. メニューの作成・入力
 - 4. <u>エクスポート</u>
 - 5. <u>インポート</u>

1. はじめに



1.1 本書について

本書について

本書ではメニューグループの「**エクスポート/インポート**」について、 実践形式で学習いただけます。



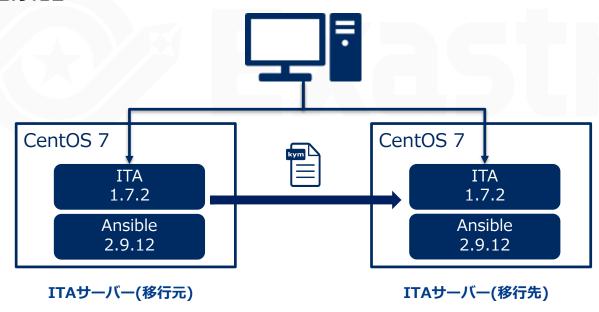
1.2 作業環境

作業環境

本書で使用する作業環境は以下の通りです。 ITAサーバーを移行元と移行先の計2台ご用意ください。

ITAサーバー 2台

- CentOS 7 (※1)
- ITA 1.7.2
- Ansible 2.9.12



※1 今回はホストサーバーとしてCentOS7を利用致しますが、ITAはRHEL7系およびRHEL8系のOSで導入いただけます。

2. 実習 メニューエクスポート



2.1 作業手順

作業手順

本シナリオは以下の流れで進行します。

① データ登録 1. 機器情報 2. オペレーション 3. メニューグループ作成 ② メニューの作成・入力 4. メニュー作成 5. 作成したメニューの入力 ③ エクスポート 6. エクスポートを実行する 7. kymファイルをダウンロードする 8. インポートを実行する 4 インポート 9. インポート結果を確認する

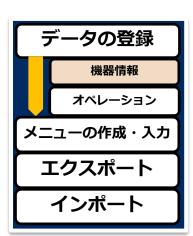
2.2 データ登録 (1/2)

機器の登録

メニュー: **基本コンソール > 機器一覧**

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。





2.2 データ登録 (2/2)

オペレーションを新規登録する

メニュー:**基本コンソール > 投入オペレーション一**覧

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目へ下表のように入力し、[登録]を押下する。



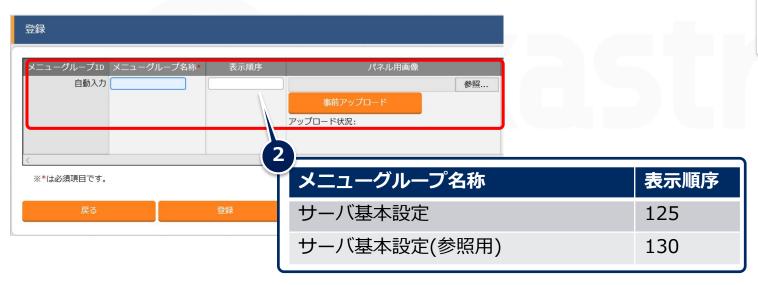


2.3 メニューの作成・入力(1/4)

メニューグループの作成

メニュー: **管理コンソール > メニューグループ管理**

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目へ下記のように入力し、登録する。





2.3 メニューの作成・入力(2/4)

パラメータシートを作成する

メニュー: **メニュー作成 > メニュー定義/作成**

- ① [メニュー作成情報]へ下表のように入力する。
- ② [対象メニューグループ]を押下し、対象メニューグループを選択する。(次項へ)



データの登録
メニューの作成・入力
メニューグループ
メニュー
作成したメニュー
エクスポート
インポート

2.3 メニューの作成・入力(3/4)

パラメータシートの項目名を定義する

メニュー: **メニュー作成 > メニュー定義/作成**

- ① [項目]を押下し、新しい項目を追加する。
- ② 各項目について、下表のように入力する。
- ③ 画面下部の[作成]を押下する。



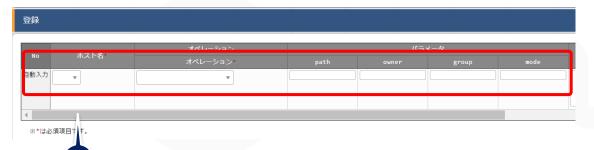


2.3 メニューの作成・入力(4/4)

パラメータシートにデータを登録する

メニュー: **サーバ基本設定 > ディレクトリ設定**

- ① 登録 > 登録開始 を押下する。
- ② 各項目で下表のように選択または入力し、[登録]を押下する。
- ③ ②で作成したデータについて、下表の内容に更新する。





ホスト名 オペレーション path

ホスト名	オペレーション	path	owner	group	mode
任意	OP1	/tmp/work1	root	root	0644

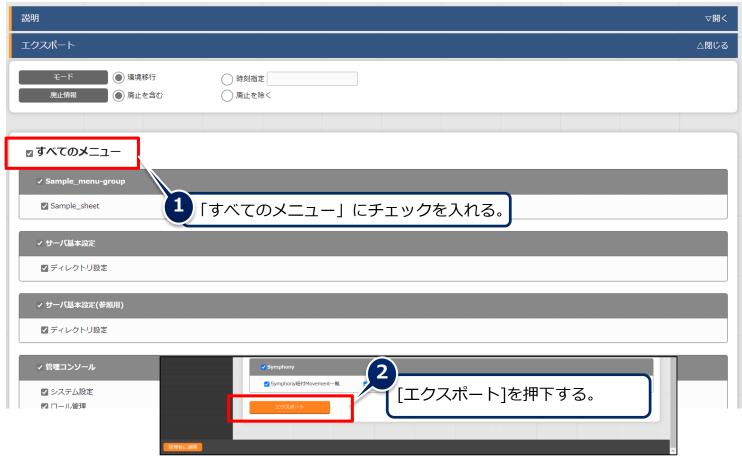
ホスト名	オペレーション	path	owner	group	mode
任意	OP1	/tmp/work2	root	root	0644

2.4 エクスポート(1/2)

エクスポートを実行する

登録した情報を選択し、エクスポートを実行しましょう。

メニュー: **エクスポート/インポート > メニューエクスポート**





2.4 エクスポート(2/2)

kymファイルをダウンロードする

実行したエクスポートのデータをダウンロードしましょう。

メニュー: エクスポート/インポート > エクスポート/インポート管理

- ① [一覧]を押下する
- ② エクスポート状況の一覧から、kymファイルをダウンロードする。





2.5 インポート(1/3)

インポートを実行する

ここからは移行先サーバでの操作となります。 kymファイルをアップロードし、インポートを実行しましょう。

メニュー: **エクスポート/インポート > メニューインポート**



データの登録
メニューの作成・入力
エクスポート
インポート
インポート
(インポートの実行)
(kymファイルの ダウンロード

2.5 インポート(2/3)

インポートのステータスを確認する

実行したインポートの情報を確認し、 ステータスが「完了」となっていることを確かめましょう。

メニュー: エクスポート/インポート > エクスポート/インポート管理

- ① [一覧]を押下する。
- ② 実行したインポートのステータスが「完了」であることを確認する。





2.5 インポート(3/3)

| インポート結果を確認する

移行されたメニューを確認しましょう。各レコードの変更履歴も移行されています。合わせて確認してみましょう。

メニュー: **サーバ基本設定 > ディレクトリ設定**

- ① [フィルタ]を押下する。
- ② 「データポータビリティプロシージャ」によってメニュー情報が 移行されていることを確認する。



- ③ [変更履歴]を押下し、登録したレコードのナンバーを入力する。
- ④ [表示]を押下し、変更履歴の情報が移行されていることを確認する。





